

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284010

研究課題名(和文) MultiDisciplinaryApproachによる戦国秦漢期新出土資料研究

研究課題名(英文) Totally Study on Newly excavated manuscripts of Chinese warring States period and Chin-Han dynasty period through A Multi Disciplinary Approach

研究代表者

谷中 信一 (YANAKA, Shinichi)

日本女子大学・文学部・研究員

研究者番号：20230253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：初年度は非発掘簡を用いた研究の基礎を固めるために、「辨偽学の確立」をサブテーマとして多角的に検討し、十分な成果を挙げた。その結果、次年度のサブテーマ「非発掘簡の資料価値の確立」につなげることができた。3年目のサブテーマ「出土資料を通じた中国文献の再評価」においても十分な成果を上げた。以上の多角的方法を駆使した研究を通じて、立体的で生き生きとした戦国秦漢時代を再構成することができた。こうした成果を踏まえて国際シンポジウム「Multi Discipline Approachによる新出土資料の総合的研究」を開催し、『中国出土資料の多角的研究』(汲古書院)を刊行した。

研究成果の概要(英文)：In the first year of our project, for laying the foundations for the study of the unofficially excavated manuscripts in China, we set up "Establishing the Examination of the Authenticity of excavated Manuscripts" as the subtopic of our project, did research on such manuscripts from various angles. Consequently, we carried out the next subtopic "The Evaluation of the Unofficially Excavated Manuscripts" in the second year. We studied the third subtopic "The Re-Evaluation of the Chinese Classical Texts by the Excavated Materials" in the third year. Making full use of the various approaches for three years, we had reproduced the solid and vivid images of the Warring States Period and Qin-Han Dynasties. Based on these results, we held the international symposium "A Synthetic Study of the Latest Excavated Materials by the Multi-Discipline Approach," and published "A Diversified Study of the Chinese Excavated Materials" (Kyuko Shoin).

研究分野：中国哲学、印度哲学、仏教学

キーワード：戦国秦漢時代 出土資料研究 北大簡 清華簡 上博簡

### 1. 研究開始当初の背景

中国には考古学発掘によるほか盗掘など非合法手段によるいわゆる非発掘簡がある。その代表的なものは、上海博物館蔵楚簡・清華大学蔵戦国簡・北京大学蔵漢簡などである。それらの研究価値は、偽でないという前提条件は附くものの、中国古代の歴史や思想、文化、文字、言語、宗教などについての研究成果を更に深化させるうえで無視できない新資料群である。しかし総じて新出土資料研究にはこれまでとは異なる研究手法が求められる。特にこれら非発掘簡については、真偽判断基準を含めて再検討し、その科学的な研究方法を検証・確立する必要があった。

### 2. 研究の目的

中国戦国秦漢時代の再構築を行う。

「出土資料学」という学問ジャンルの高度化を目的として「Multi Disciplinary Approach」の観点から、中国戦国秦漢期の出土資料、即ち空間的には中国大陸の長江流域とその周辺地域、時間的には紀元前4世紀から紀元1世紀までのおよそ500年間における新出土資料を対象とし、従来、漫然と行われてきた出土資料分析のあり方を再検討し、思想史や社会史再構築の方法論を提示すると共に、個々の資料を歴史の中に定位する作業を通じて、未曾有の激動の時代を体験した人間の精神的営みの真実に迫ることを本研究プロジェクトの目的とする。即ち、具体的には上海博物館蔵戦国楚竹書、清華大学蔵戦国竹簡、北京大学蔵西漢竹書等の研究である。

### 3. 研究の方法

以下を柱に、研究を推進する。

定例研究会の開催

国内外の研究者との学術交流

ホームページによる研究成果の情報発信

論文集の刊行

これらの研究活動を通じて、中国思想史学・宗教学の Discipline としての長所である文献の緻密で正確な読解の伝統、中国文学・中国語学の戦国時代の文字統一以前の文字を読み解く上では不可欠な要素である言語学的な精密性、歴史学・考古学の文化、制度、社会など広範囲に及ぶ豊かな研究蓄積などを総合して、従来の文史哲の枠組みを超えた新たな「Multi Disciplinary Approach」による研究を行う。

### 4. 研究成果

初年度は、主として非発掘簡を用いた研究の基礎を固めるために、「辨偽学の確立」をサブテーマとして設定し、これをめぐって多角的に検討を進め、十分な成果を挙げた。その結果次年度のサブテーマ「非発掘簡の資料価値の確立」につなげることができた。3年目はサブテーマ「出土資料を通じた中国文献の再評価」を掲げて十分な成果を上げた。以上3年間にわたる多角的方法を駆使した研究を

通じて、立体的で活き活きとした戦国秦漢時代を再構成することができた。こうした成果を踏まえて国際シンポジウム「Multi Discipline Approach による新出土資料の総合的研究」を開催し、『中国出土資料の多角的研究』(汲古書院)を刊行した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 55 件)

谷中信一、「近世期漢学の一側面 太宰春臺『老子特解』を中心に」、『国文目白』第57号、2018年、15-25頁、査読無

谷中信一、「清華簡『命訓』の思想と成立について」、『東洋文化』第98号、2018年、129-161頁、査読無

大西克也、「釋「喪」「亡」」、『第二十八屆中國文字學國際學術研討會論文集』全1巻、2017年、377-403頁、査読有

大西克也、「浙江大學藏竹簡『左傳』は研究資料たり得るか」、『汲古』第72号、2017年、20-25頁、査読有

名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《室》《築》綴合校釋」、『第28屆中國文字學國際學術研討會論文集』全1巻、2017年、617-626頁、査読有

名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之七》綴合校釋」、『第三屆出土文獻與上古漢語研究(簡帛專題)學術研討會論文集』全1巻、2017年、122-129頁、査読有

名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《徙》《天地》《女發》《雜占之二》綴合校釋」、『世界漢字學會第五屆年會論文集』全1巻、2017年、63-74頁、査読有

名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之六》《築(二)》《五行禁日》綴合校釋」、『中國簡牘國際學術研討會論文集』全1巻、2017年、101-112頁、査読有

名和敏光、「北京大學漢簡 堪輿 と馬王堆帛書『陰陽五行』甲篇 堪輿 の對比研究」、『出土文獻と秦楚文化』10号、2017年、1-18頁、査読無

谷中信一、「論西漢黃老道家的去向 以《淮南子・道応訓》所引《老子》為中心」、『文史哲』第3期、2016年、32-42頁、査読有

名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《道》《雜占之四》綴合校釋」、『出土文獻』8輯、2016年、146-158頁、査読有

末永高康、「漢初の曆の曆元について」、『中国研究集刊』62号、2016年、1-12頁、査読有

谷中信一、「清華簡『命訓』訳注」、『出土

文献と秦楚文化』第9号、2016年、77-98頁、査読無

小寺敦、「調査報告：復旦大學出土文獻與古文字研究中心の學術活動について」『出土文獻と秦楚文化』第9号、2016年、51-55頁、査読無

池澤優、「文化的差異の視点から死生学を考える」『死生学・応用倫理研究』第21号、2015年、84-100頁、査読無

名和敏光、「馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇整體結構的復原」『《長沙馬王堆漢墓簡帛集成》修訂國際研討會論文集』1巻、2015年、197-208頁、査読有

末永高康、「『儀礼』の「記」をめぐる一考察」『東洋古典学研究』第39集、2015年、1-18頁、査読無

谷中信二、「『淮南子』道應訓所引『老子』テキストの性格 北京大学藏西漢竹書『老子』との對照」『出土文獻と秦楚文化』8号、2015年、73-87頁、査読無

池澤優、「中国における呪術に関する若干の考察 呪術(magic)という語の呪術的性格」『江川純・久保田浩編「呪術」の呪縛』1巻、2015年、257-296頁、査読無

小寺敦、「科研調査團北京大學出土文獻研究所訪問記」『出土文獻と秦楚文化』8号、2015年、127-129頁、査読無

②① 大西克也、「關於「漢字」一詞產生過程的一點想法」『第二十五屆中國文字學國際學術研討會論文集』1巻、2014年、601-606頁、査読無

②② 名和敏光、「“某”字攷」『第2回世界漢字学会論文集』1巻、2014年、243-252頁、査読有

②③ 末永高康、「清華簡『筮法』の求爻法について」『東洋古典学研究』37集、2014年、1-21頁、査読無

〔学会発表〕(計 22 件)

谷中信二、「清華簡(六)『管仲』述作の背景にあるもの」國際學術シンポジウム「Multi Disciplinary Approach による戦国秦漢期新出土資料研究」(招待講演)(國際学会)、2018年

小寺敦、「清華簡『鄭武夫人規孺子』の謙虚な君主像について」國際學術シンポジウム「Multi Disciplinary Approach による新出土資料の總合的研究」(招待講演)(國際学会)、2018年

名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《室》《築》綴合校釋」第28屆中國文字學國際學術研討會(招待講演)(國際学会)、2017年

名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之七》綴合校釋」第三屆出土文獻與上古漢語研究(簡帛專題)高端學術論壇(招待講演)(國際学会)、2017年

大西克也、「伝世文獻から見た楚簡における「喪」と「亡」について」國際學術

討論會「出土資料を通じた中国文献の再評価」(招待講演)(國際学会)、2017年

谷中信二、「清華簡『命訓』の思想と成立」國際學術シンポジウム「非発掘簡の資料価値の確立」、2016年

大西克也、「清華簡《繫年》為楚簡說從其用字特點探討」“源遠流長：漢字國際學術研討會&#26280;AEARU 第三屆漢字文化研討會”、2015年

名和敏光、「馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇整體結構的復原」《長沙馬王堆漢墓簡帛集成》修訂國際研討會、2015年

池澤優、「生命倫理と伝統的文化 中国における知情同意(インフォームド・コンセント)に関する」日本生命倫理学会第二五回年次大会、2015年

谷中信二、「《史記・老子傳》：中隱含的事實」2014年第四屆洛陽老子文化國際論壇(招待講演)、2014年

〔図書〕(計 7 件)

谷中信二、『中國出土資料の多角的研究』汲古書院、2018年、575頁

谷中信二、『東洋思想と日本』汲古書院、2017年、282頁

谷中信二、『先秦秦漢思想史』上海古籍出版社、2015年、456頁

谷中信二、『『老子』經典化過程の研究』汲古書院、2015年、299頁

大西克也(大櫛敦弘と共著)、『馬王堆出土文獻訳注叢書・戦国縦横家書』東方書店、2015年、272頁

末永高康、『性善説の誕生 先秦儒家思想史の一断面』創文社、2015年、343頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

出土資料と漢字文化研究会

<http://mcm-www.jwu.ac.jp/~skproject/>

本ホームページは、谷中信一（代表者）が行った科研研究基盤 B「新出土資料を通してみた古代東アジア世界の諸相 - 漢字文化圏の中の地域性 -」（2008.4 - 2011.3）以来今まで、維持運営している。

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

谷中 信一 (YANAKA, Shinichi)

日本女子大学・文学部・研究員

研究者番号：20230253

### (2)研究分担者

大西 克也 (ONISHI, Katsuya)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：10272452

名和 敏光 (NAWA, Toshimitsu)

山梨県立大学・公立大学の部局等・准教授

研究者番号：30291868

末永 高康 (SUENAGA, Takayasu)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：30305106

小寺 敦 (KOTERA, Atsushi)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：30431828

池澤 優 (IKEZAWA, Masaru)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：90250993

### (3)連携研究者

戸内 俊介 (TONOUCHI, Shunsuke)

二松学舎大学・文学部・准教授

研究者番号：70713048

宮本 徹 (MIYAMOTO, Tohru)

放送大学・教養学部・准教授

研究者番号：30345243

丹羽 崇史 (NIWA, Takafumi)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員

研究者番号：40455564